

[特別企画3]

血液製剤発注システムの導入状況と今後の利用促進について

三浦 晃¹⁾, 齊藤和哉¹⁾, 石井浩行¹⁾, 鈴木一彦¹⁾, 兼松藤男¹⁾,
村井利文¹⁾, 山本 哲¹⁾, 紀野修一²⁾, 牟禮一秀²⁾
北海道赤十字血液センター¹⁾, 日本赤十字社北海道ブロック血液センター²⁾

【はじめに】

血液製剤発注システム(以下「発注システム」)は, 従来の血液製剤発注方法である電話・FAXに代わる新たな方法として, 平成27年度より受注過誤防止や受注の効率化等を目的に全国で運用が開始された。

今回, 北海道センターにおける推進状況と, さらなる利用促進に向けた医療機関アンケートを実施し, また, アンケート結果から今後の発注システムの利用促進について検討したので併せて報告する。

【導入状況と推進過程で浮上した課題】

北海道にて運用が開始された平成27年度は, 試験運用として1件の医療機関のみ導入, 翌28年度から本格的な推進を開始し20件の導入, 29年度には25件の導入となり, 30年度8月末時点で北海道内累計73件の医療機関が発注システムを導入している。

しかしながら, 運用開始から平成29年10月末時点まで105件の医療機関が発注システムの導入を提案し, 導入に至らなかった医療機関が64件あった。このように北海道において発注システムを推進する過程で, 導入医療機関数の伸び悩みという課題が浮上した。

【医療機関アンケートの対象および方法】

課題を解消しさらなる利用拡大を図るため, 医療機関ニーズの調査が必要であると考え, 医療機関に対しアンケート調査を実施した。調査対象は, 平成29年10月末時点で発注システムを導入していた41件の医療機関であり, 平成29年11月17

日～12月4日の期間で実施した。調査方法は訪問による聞き取り形式を採用し, アンケートに基づいた質問の回答を集めた。質問内容は「発注システム導入後の満足度」, 「発注システムの利点・魅力」, 「発注システムに対する不満と要望」に関する全20問を用意した。

【調査結果】

はじめに, 「発注システム導入後の満足度」に関して2問, 「発注システム導入前後の変化」に関して2問, 計4問の選択形式で実施した質問の回答結果を報告する(図1)。回答は, それぞれ五段階での選択を依頼した。まず, 「発注システム導入後の満足度」に関する調査結果について報告する。1問目, 「総合的に判断して, 発注システムを導入して良かったと思われますか。」との質問に対して, 70.7%を占める29件の医療機関が良かった, または, まあまあ良かったとの回答であった。

2問目, 「発注システムに対する満足度(使い易さ)についてお答え願います。」との質問について, 46.4%の19件の医療機関が満足, または, やや満足と回答したが, 対して36.6%の15件の医療機関がやや不満である, または不満であると回答しており発注システムの操作性や仕様については不満や要望があることが分かった。

続いて, 「発注システム導入前後の変化」に関する調査結果について報告する。1問目, 「発注システムを導入したことで, 血液製剤の発注にかかる時間が減少したと思われますか。」との質問に対し, 41.5%にあたる17件の医療機関が発注にかかる時間が減少したとの回答であった。

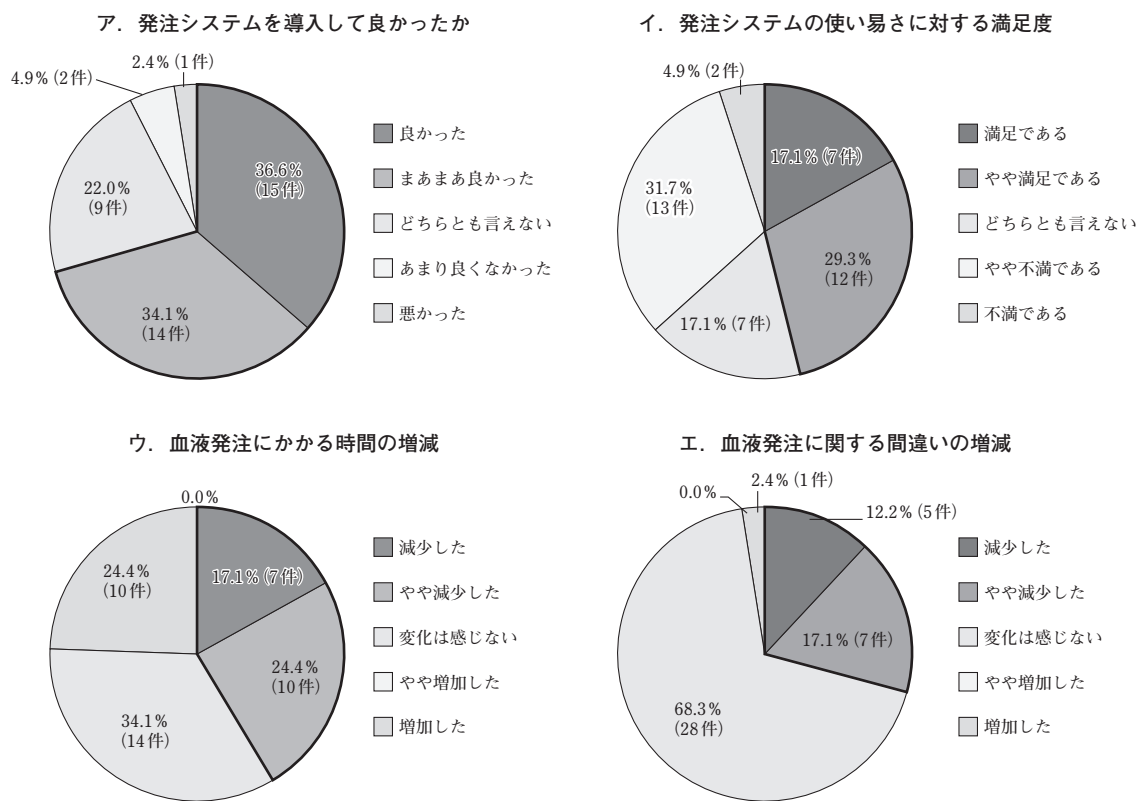


図1 アンケート調査結果

2 問目、「発注システムを導入したことで、血液製剤の発注に関する間違いが減少したと思われますか。」との質問に対し、29.3%の12件の医療機関が減少した、または、やや減少したとの回答であった。ただし、元々間違いの少なかった医療機関は、変化は感じないとの回答をしており全体の68.3%を占めた。

以上より、発注システムの導入により血液発注は効率的になった、また、過誤が減少したと感じている医療機関が多数あることが分かった。

次に、医療機関が感じる「発注システムの利点、魅力」と「発注システムに対する不満と要望」について、自由回答形式の質問に対する回答を報告する。

まずは「発注システムの利点、魅力」について、結果は3点に大別された。1 点目は「作業効率の上昇」であり、発注状況や発注履歴の確認が容易

になったとの意見が挙げられた。2 点目は「過誤の防止効果」であり、言い間違い等のヒューマンエラーに起因するミスが減少したとの意見だった。3 点目は「費用削減効果、スペースの有効利用」であり、FAX 不使用による紙代と通信費の削減、また、発注票保管スペースが有効利用できるとの意見だった。

次に、「発注システムに対する不満と要望」について、結果は2 点に大別された。1 点目は「作業内容により使い勝手が悪い部分がある」ことであり、発注操作をマウス操作だけで完結できないこと等が挙げられた。2 点目は「医療機関により発注過誤の可能性がある」ことであり、医療機関により使用しない製剤、たとえば未照射赤血球の表示による選択過誤の可能性があるとの意見だった。

【今後の利用促進に向けた活動】

今後の利用促進方法を検討するため、平成30年度に北海道内各供給施設の担当者を招集し会議を開催した。そこで医療機関への提案方法として、アンケート調査の結果をまとめた提案資料(図2)と、医療機関の施設長宛て導入依頼文書を作成し発送した。それと同時に発注システムの説明方法等を確認し、担当者レベルの均一化を図った。

【考 察】

今後の発注システムの利用促進は、アンケート

調査より明確となった「発注システムの利点、魅力」を活用することが効果的と考えており、実行していく。また、平成30年9月6日に北海道胆振東部地震が発生したが、発注システムは震災時にもスムーズな受発注が可能だったことから、災害時の電話・FAX不通時に有効な発注方法としても医療機関に推奨したい。併せて、血液センターと医療機関双方に有効なシステムを目指して情報収集を継続し、医療機関からの要望等は精査し必要に応じて改修要望としての提言をしていきたい。



図2 利用促進に向けた提案資料